

## 目標達成計画

作成日：平成27年4月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 3	認知症サポーター養成講座を受けられた限られたボランティアの方に来ていただき、交流を通じて認知症の理解に繋がっているが、もっと多くの方たちと交流を広げていきたい。	日常的に地域の人々と交流していきながら、認知症の理解に繋げる。ホームの行事に参加頂いたり、地区のイベントへ利用者が参加できるように交流の場を作っていく。	包括支援センターと連携を図りながらより地域に根付いた専門的な支援をしていく。毎月の自治協議会への参加、他の地域密着型事業所との地域ケア会議に参加し、意見交換を行う。	12ヶ月
2	36	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保一人ひとりの人格を尊重し支援しているが、感情で大きい声で接したり、無意識に他者の前で本人のプライバシーを傷つけてしまうような会話がある。	認知症の人と言う意識でなく、一人の人間人生の先輩方と意識を持って、お一人ひとりの敬愛の念を持ち、尊重し支援に当たる。	常に福寿荘の理念に基づいた自分自身のケアの振り返りを行う。日々の中でスタッフ同士による気づきや意見交換を行う。	12ヶ月
3	52	外回りの季節感を採り入れた視覚的環境の工夫が足りない。	玄関周りや、リビングからの眺めを良くするために草花を植える。	利用者と一緒に、植物の苗やプランターを買いに行き、一緒に作業する。	6ヶ月
4	53	共用空間においてスタッフの発する声や音などが、場合によっては利用者の不快や混乱に繋がっている、または、可能性がある。	スタッフも環境の一つであることを理解し自らの言動(声の大きさ、足音、ドアの開け閉めの音)に注意し、支援を行っていく。	利用者の方々を左右する一番の環境要因はスタッフ自身であることをよく考え、実践し言動を行っていく。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。